

アズコム

## 文書保管2.5倍 55万ヶ所

### 47億円投じ専用施設建設

システム開発のアズコムデータセキュリティ(埼玉県吉川市、斎藤健吾社長)は文書管理サービスを強化する。二〇一四年までに総額四十七億円を投じ機密文書などを保管する専用施設を埼玉

平方メートルの敷地内に計六棟の施設を建設。このほど約十五万ヶ所を保管可能な新棟を完工した。同棟だけで年間一億円以上の増収効果を見込む。

アズコムは社内に保管するスペースが無くて管理に困っている重要書類を顧客企業から預かり専用施設で保管する。顧客にとっては預けた書類を

自分に合ったペースで電子化できる利点がある。従来も二十二万ヶ所を保管可能な専用施設を確保していたが、年内にも満杯になるため増設する。昨年からは日本版SOX法(J-SOX法)とも呼ばれる内部統制報告制度が始まり、新法に該当する上場企業などの利用が増えているという。

増える。内部統制や会計基準の変更に対応したい顧客から引き合いが増えていることに対応する。秩父みどりが丘工業団地の総敷地面積三万三千

同社と提携する新日鉄を利用すれば顧客はアズコムに文書を預けたまま電子化データのみを取り寄せられる。サービスの利用料は月二十万円から。